B鑑賞ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）（ウ）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 音楽Ⅰワークシート | 日本の伝統音楽に親しもう | 教科書『高校生の音楽１』 | P.102-103 日本の伝統音楽P.106 能の音楽に親しもうP.142 日本における西洋音楽の展開 |
| 氏名 |  | 評価 |  |

1. **「日本の伝統音楽」（教P.102）を読んで、次の問いに答えよう。［知］**
2. **日本の伝統音楽について、次の文章を完成させよう。**
3. **ア〜キの日本音楽の主な種目の説明を読んで、成立時期（古代・中世・近世）を（　　）に、各種目の名称を〔　　〕に書こう。**

主な種目の名称：雅楽　声明　平家　能楽　三曲　歌舞伎　文楽

ア　地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽の総称で、江戸時代には主に盲人音楽家が演奏した。…（　　　　　）〔　　　　　〕

イ　仏教とともに伝わった単旋律の声楽で、仏教儀礼の際に僧侶によって唱えられる。…（　　　　　）〔　　　　　〕

ウ　音楽と舞踊が融合した演劇で、江戸時代には幕府の公式行事の際に演じられた。…（　　　　　）〔　　　　　〕

エ　平安時代に整理された儀式音楽で、宮中や寺社で用いられた。…（　　　　　）〔　　　　　〕

オ　義太夫節を伴奏音楽にした人形劇で、町人文化を背景に発展した。…（　　　　　）〔　　　　　〕

カ　『平家物語』を琵琶の伴奏で語る音楽で、琵琶法師によって演奏された。…（　　　　　）〔　　　　　〕

キ　演劇と舞踊、さまざまな音楽が一体となった歌舞劇で、町人を中心に流行した。…（　　　　　）〔　　　　　〕

1. **「呂中干の唱歌を覚えよう」（教P.106）を読み、次の問いに答えよう。**
2. **次の文章を完成させよう。［知］**
3. **呂中干の唱歌を聴いて、ア〜エを正しい順番に並べよう。［主／知］**

（　　　　　　→　　　　　　→ 　　　　　　→ 　　　　　　）

ア：ヲヒャヒュイヒョイウリ

イ：ヒウルイヒョイウリ

ウ：ヲヒャライホウホウヒ

エ：ヲヒャライヒウヤ

日本には、成立時期の異なるさまざまな音楽が併存している。その理由の一つとして、それぞれの音楽を享受する社会的グループが異なっていたことが挙げられる。近代になるまでは、雅楽は（　　　　　）社会で、能楽は（　　　　　）社会で伝えられ、歌舞伎や文楽は（　　　　　）の間で楽しまれていた。

日本の伝統音楽には、（　　　　　）を使う音楽が圧倒的に多く、楽器のみのものはごく一部である。

また、日本の伝統音楽では、音を聴いて覚え、（　　　　　）ことが重視され、（　　　　　）の音を言葉に置き換えて唱える「（　　　　　）」が活用されている。

能の見せどころは（　　　　　）の舞である。舞の音楽の多くは、（　　　　　）によって繰り返される「呂中干」という旋律を基本としている。呂中干は（　　　　　）つの短いフレーズからなり、曲や（　　　　　）に合わせて（　　　　　）を変えたり（　　　　　）を加えたりして、さまざまな雰囲気を表現し分けている。

「呂中干」唱歌

1. **《安宅》《高砂》《井筒》《羽衣》（教P.107）について、次の問いに答えよう。**
2. **あらすじを読んで、ア〜エの説明に当てはまる能を（　　）に書こう。［知／主］**

ア　松の木が老夫婦の姿となって現れ、二人の絆と天下の泰平を祝福する。…（　　　　　）

イ　天人が「羽衣を返してほしい」と懇願し、美しい舞を舞う。…（　　　　　）

ウ　旅の僧の夢の中に、在原業平の面影を懐かしむ紀有常の娘が現れる。…（　　　　　）

エ　弁慶が、主人である義経をわざと打って修羅場を切り抜ける。…（　　　　　）

1. **４つの舞の音楽を聴いてそれぞれの呂中干の特徴を感じ取り、あらすじと関連付けて、その違いを書こう。［思・判・表／主］**
2. **2)で書いたことをもとに、意見交換しよう。［思・判・表／主］**
3. **「謡に挑戦しよう」（教P.106）について、次の問いに答えよう。**
4. **次の文章を完成させよう。［知］**
5. **《高砂》（教P.106）のツヨ吟の謡を聴いて、まねて謡おう。［思・判・表／主］**
6. **《羽衣》（教P.106）のヨワ吟の謡を聴いて、まねて謡おう。［思・判・表／主］**
7. **謡った感想や、能や謡について気付いたことを書こう。［思・判・表／主］**
8. **「狂言の音楽」（教P.107）について、次の文章を完成させよう。［知］**

|  |  |
| --- | --- |
| 《安宅》 | 《高砂》 |
|  |  |
| 《井筒》 | 《羽衣》 |
|  |  |

能の物語は「謡」によって進行していく。謡は、せりふ部分の「（　　　　　）」と旋律的部分の「（　　　　　）」に分けられる。後者には、息を強く出しながら力強く謡う「（　　　　　）」と、旋律を重視して繊細に謡う「（　　　　　）」という２つの発声法があり、（　　　　　）や（　　　　　）に応じて謡い分ける。

狂言は（　　　　　）を中心とする演劇だが、歌や（　　　　　）、囃子の入る演目も多く、音や音楽が重要な役割を果たしている。せりふには、多くの（　　　　　）が用いられる。